

〈論 文〉

無アクセント地域の若年層における

「じゃね？」先行語のアクセント

— 収録による調査と音声を提示したアンケート調査 —

高 丸 圭 一

キーワード：無アクセント，若年層，標準語化，平板化，「じゃね」

1. はじめに

栃木県は足利・佐野などの県南西地域を除くと、無アクセント（崩壊アクセント、一型アクセントとも呼ばれる）の地域であり、アクセントによって語の意味を弁別しないことが知られている（森下 2004, 早野 2006）。しかし、小池（1982）が 1981 年に行った調査では、栃木県育ちで両親とも栃木県出身の国立大学 1 年生の 27%（126 人中 34 人）がアクセント型の異なる同音異義語対 10 個をすべて東京式アクセントの通りに聞き分けた。TV などのメディアの影響や、交通網の発達に伴う人的交流の広がりを考慮すると、現在の若年層では東京式アクセントを聞き分ける者の割合がさらに増加していると考えられる。

一方、東京近郊の若年層に観察される新方言「～じゃね？」では、先行する語の平板化が指摘されている（井上 2008a, b）。東京式アクセントを弁別している者でも、「じゃね？」先行語ではアクセントをつけずに、北関東の無アクセントの特徴である尻上がり調のように、例えば「飴じゃね？」と「雨じゃね？」をどちらも平板で発音し、文末を右肩上がりにも上昇させるものである。田中（2009）では、この先行語の平板化を伴う「～じゃね？」は、「～ない？」の「～」の部分のアクセントが消失するとびはね音調の文末の音訛（/nai/→/ne/）によって現れると説明している。

無アクセント地域の栃木県居住者は若年層になるに従って、東京式アクセントを獲得しつつある一方、東京式アクセント地域の若年層は「じゃない？」や「じゃね？」の先行語のアクセントを消失させて発音する。そこで、現在の栃木県居住者の若年層は「じゃない？」や「じゃね？」に先行する語をどのように発音しているのかという疑問が生じる。想定されるパタンは大まかに分けて図 1 のようになる。

本稿では、単語アクセントの弁別、および、「じゃない？」「じゃね？」先行語のアクセントの平板化の状況について行った調査について述べる。まず、収録調査によって、東京近郊の若年層と栃

単 語	東 京 式			無アクセント
じゃない先行語	東 京 式		平 板	無アクセント
じゃね先行語	東京式	平 板	平 板	無アクセント
↓ ↓ ↓ ↓				
	東京式	「じゃね？」先行語 の平板化	とびはね音調	無アクセント

図 1 想定される栃木県居住若年層のアクセント

木県居住の若年層のアクセントを比較する。次に、音声を提示したアンケート調査によって、栃木県居住の若年層と成人層のアクセントを比較する。栃木県居住の若年層を中心として、東京近郊若年層、および、栃木県居住の成人層とをそれぞれ比較することにより無アクセント地域における東京式アクセントの獲得や東京式アクセント地域における平板化（アクセントの消失）を分析するとともに、東京近郊で新しい現象として「じゃない？」や「じゃね？」の先行語に観察される平板化と栃木の無アクセント＋尻上がりの音調の関連を探ることが研究の目的である。

2. 東京近郊と栃木県の若年層に対する発音の収録調査

2.1 調査の方法

インフォーマントが発音した頭高型と平板型の「アメ」（「雨」と「飴」）を、①単語単独、②「～じゃない？」に当てはめたもの、③「～じゃね？」に当てはめたものをそれぞれ収録する。さらに、「じゃね？」の直前が動詞である例として、④「雨降（る）んじゃね？」、「晴れ（る）んじゃね？」をあわせて収録する。調査対象の単語、短文を表 1 に示す。

表 1 調査対象の単語、短文

	(A)頭高型 2 拍名詞	(B)平板型 2 拍名詞
①名詞	雨	飴
②名詞＋「じゃない？」	雨じゃない？	飴じゃない？
③名詞＋「じゃね？」	雨じゃね？	飴じゃね？
	(C)頭高型名詞＋頭高型動詞	(D)中高型動詞
④(名詞＋) 動詞＋「じゃね？」	雨降（る）んじゃね？	晴れ（る）んじゃね？

インフォーマントは、栃木県内に居住し宇都宮市内の大学に通う 19～20 歳の大学生 7 名（栃木県居住若年層 A～G）、および、東京都または隣接県に居住する 22～23 歳の大学院生 3 名⁽¹⁾（東京近郊若年層 X～Z）である。インフォーマントの性別と出身地、父の出身地、母の出身地を表 2 に示す。

栃木県居住若年層の収録は、平成 21 年 6 月 11 日に防音室で、Roland 製デジタルレコーダー

表2 インフォーマントの性別および出身地

	インフォーマント	性 別	出 身 地	父の出身地	母の出身地
栃木県居 住若年層	A	女 性	栃木県宇都宮市	栃木県宇都宮市	栃木県宇都宮市
	B	男 性	栃木県宇都宮市	栃木県宇都宮市	茨城県下館市
	C	男 性	栃木県宇都宮市	栃木県宇都宮市	栃木県宇都宮市
	D	男 性	福島県郡山市	宮城県松島町	福島県田村市
	E	男 性	栃木県宇都宮市	栃木県宇都宮市	栃木県宇都宮市
	F	男 性	栃木県宇都宮市	栃木県宇都宮市	栃木県矢板市
	G	男 性	栃木県矢板市	栃木県矢板市	栃木県那須塩原市
東京近郊 若 年 層	X	男 性	神奈川県横浜市	神奈川県横浜市	神奈川県横浜市
	Y	男 性	東京都江戸川区	東京都新宿区	東京都新宿区
	Z	男 性	千葉県市原市	千葉県市原市	千葉県松戸市

R-09, Sony 製コンデンサマイクロホン ECM-MS 907 を使用して行った。東京近郊若年層の収録は平成 21 年 7 月 1 日に普通教室で IC レコーダーを使用して行った。調査の詳細な目的は説明せず、普段どのように話すかを思い出しながら、表 1 に示す順に単語または短文を 2 回ずつ発音するように指示した。

収録した音声は 1 つずつ分割し、標本化周波数 16 kHz にダウンサンプリングした上で、Snack (<http://www.speech.kth.se/snack/>) に実装された相互相関係数に基づく手法により、フレーム長 25 ms, フレームシフト 5 ms でピッチ抽出を行った。

2.2 結果と考察

2.2.1 アクセントの得点化

収録した音声の聴取とピッチパタンの観察に基づいて、各発音のアクセントを確認し、東京式アクセントかどうかを基準に得点化した。①から③について、東京式アクセントのとおり発音（すなわち、雨を頭高に、飴を平板に発音したもの）を 2 点、それとは逆に発音したものを 0 点とした。また、④の「雨降んじゃね？」では、「雨」「降ん」ともに頭高のものを 2 点、「雨」が頭高で「降ん」が平板のものを 1 点、「雨」「降ん」ともに平板のものを 0 点とした。すなわち、得点が低いほど東京式アクセントから離れていることを示している。表 3 に全インフォーマントの得点を合計得点の高い順に示す。また、統計解析ソフト R (<http://www.r-project.org/>) の MASS パッケージに収録された `corresp` 関数を用いて、得点の対応分析を行った結果を図 2 に示す⁽²⁾。

表 3 および図 2 から、インフォーマントは概ね 4 つのグループに分けられることが分かる。第 I グループは「晴れんじゃね？」以外はすべて東京式アクセントで発音するグループである。インフォーマント X が属する。第 II グループでは「雨降んじゃね？」の「降ん」に平板化が観察される。インフォーマント A, B, C が属する。第 III グループでは「雨じゃない?」「雨じゃね?」の雨に平板化が観察される。インフォーマント Y, Z が属する。第 IV グループでは単語の発音に東京式ではな

表3 アクセントを得点化した結果（合計得点の降順）

インフォ マント	回数	①単語		②じゃない		③じゃね		④		合計
		雨	飴	雨	飴	雨	飴	雨降ん じゃね	晴れん じゃね	
X	1	2	2	2	2	2	2	2	0	28
	2	2	2	2	2	2	2	2	0	
A	1	2	2	2	2	2	2	1	0	26
	2	2	2	2	2	2	2	1	0	
B	1	2	2	2	2	2	2	1	0	26
	2	2	2	2	2	2	2	1	0	
C	1	2	2	2	0	2	2	1	0	22
	2	2	2	2	0	2	2	1	0	
Y	1	2	2	0	2	0	2	1	0	18
	2	2	2	0	2	0	2	1	0	
Z	1	2	2	0	0	0	2	1	0	12
	2	2	2	0	0	0	0	1	0	
D	1	2	0	0	2	0	2	0	0	12
	2	2	0	0	2	0	2	0	0	
E	1	2	0	0	0	0	2	0	0	12
	2	2	0	2	2	0	2	0	0	
F	1	2	0	0	2	0	2	0	0	12
	2	2	0	0	2	0	2	0	0	
G	1	2	0	0	2	0	2	0	0	10
	2	0	0	0	2	0	2	0	0	

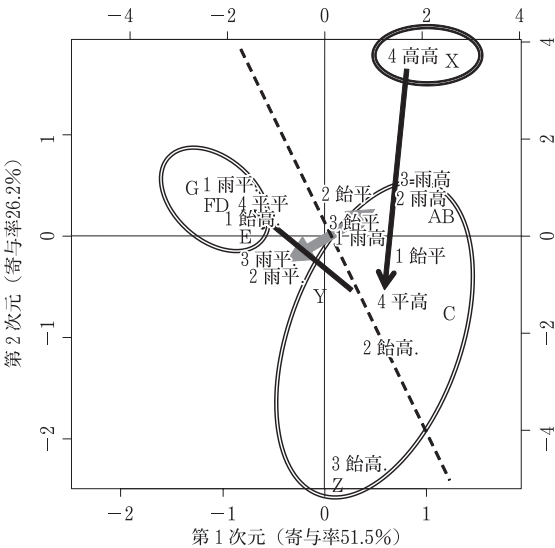


図2 得点の対応分析

いアクセントが観察され、「雨降んじゃね？」では「雨」「降ん」の両方に平板化が観察される。インフォーマント D, E, F, G が属する。

図2では、「雨じゃない?」「雨じゃね?」の平板化（グラフ中に点線の補助線で示す）および、「雨降んじゃね?」の平板化の範囲（二重線の楕円で示す）によって、同じようにインフォーマントが分類されることが確認できる。得点が最も高い X から最も低い G が矢印に示すように、馬蹄形に近い分布を示しており、平板化（または栃木県若年層の無アクセント）の度合いに基づいて、インフォーマントは一次元に近い構造をなしていると考えられる。

2.2.2 考察

栃木県居住若年層では、「じゃない?」「じゃね?」に先行する「雨」を頭高に発音したインフォーマント（グループⅡ）は、単語「雨」「飴」も東京式アクセントで発音している。グループⅡのインフォーマントはすべて宇都宮市出身である。栃木県で最も都市化が進んでいる地域であり、地理的文化的側面から東京方言話者との交流が多いために、東京式アクセントを獲得し、使用しているものと考えられる。一方、「じゃない?」「じゃね?」に先行する「雨」を平板に発音したインフォーマント（グループⅣ）は、単語「雨」「飴」をどちらも頭高に発音している。このグループⅣのインフォーマントは、「雨降んじゃね?」の「雨」「降ん」の両方を平板に発音している。グループⅣのインフォーマントは、無アクセント話者であり、県北部や福島県出身の者が含まれる。これらのインフォーマントの「～じゃない?」「～じゃね?」の発音は、北関東の無アクセントに見られる典型的な尻上がりの音調そのものであると考えられる。

東京近郊若年層では、すべてのインフォーマントが単語「雨」「飴」を東京式アクセントで発音している。先行語が平板化する特徴を有する新方言「じゃね?」やとびはね音調を使用しないインフォーマント（グループⅠ）と、使用するインフォーマント（グループⅢ）が存在する。ただし、これが、グループⅡが北関東により近いからという地域差であるか、インフォーマント X がより忠実に東京アクセントを使用しているという個人差であるかは本調査からは言及できない。東京近郊における「じゃない?」「じゃね?」先行語の平板化については、更なる調査が必要である。

3. 音声を提示したアンケート調査

3.1 調査の方法

栃木県居住者を対象として、世代（若年層⇔成人層）およびアクセントの獲得（東京式アクセント⇔無アクセント）と、「じゃない?」「じゃね?」先行語の平板化の関係について調査することを目的として、音声を提示した質問紙によるアンケート調査を行った。

3.1.1 インフォーマント

インフォーマントは宇都宮市内の私立高校に通う高校1年生 414 名、および、那須地域在住の成

人48名である。高校生に対する調査は、平成21年6月20日（普通科309名）と10月10日（情報商業科105名）の2回に分けて、それぞれを高校内のホールに集めて実施した。また、那須地域在住の成人に対する調査は、平成21年10月21日に那須塩原市主催の市民講座において実施した。参加者の半数は60歳以上であった。

3.1.2 提示音声とアンケートの項目

東京式アクセントの聞き分けを調査するために、NHKアクセント辞典CD-ROM版（NHK放送文化研究所2002）に収録された「飴」「雨」「橋」「箸」の各音声を順に1つずつ提示した。「次のうち、どれに聞こえるか」を質問した。「雨」「飴」の音声では「雨（に聞こえる）」、「飴（に聞こえる）」、「どちらでもない」、「どちらにもとれる」から1つを選択させた。「箸」「橋」では「箸（に聞こえる）」、「橋（に聞こえる）」、「どちらでもない」、「どちらにもとれる」から1つを選択させた。提示した音声のうち「飴」と「雨」のピッチパターンを図3に示す。

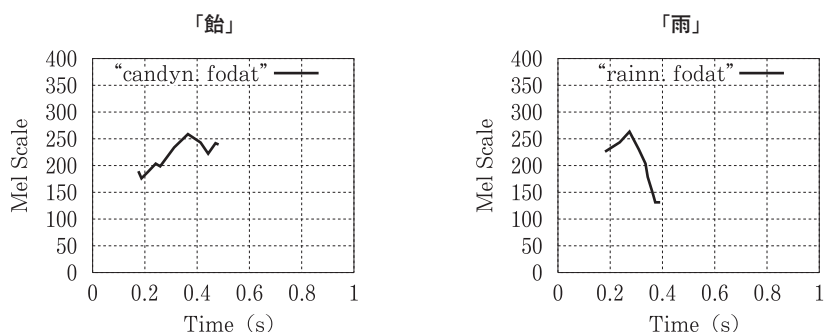


図3 提示した音声

次に「雨じゃない?」「雨じゃね?」「雨降んじゃね?」の3つについて、表4に示すように「アメ」および「フン」の部分をも、頭高型と平板型で発音した音声をあらかじめ録音した。「アメじゃね?」を頭高型で発音したものと、平板型で発音したもののピッチパターンを図4に示す。回答用紙には対象とする文が漢字仮名交じり文で記されており、それぞれについて「自分がいうとしたら提示する音声の中で、どの言い方に一番近いか」を質問し、音声の番号を選択させた。複数回答、無回答（どれにもあてはまらない）を認めた。

表4 調査2で提示した音声

	対象とする文	音声 A (平板)	音声 B (頭高)	
①	「雨じゃない?」	「アメじゃない」	「ア [↑] メじゃない」	
②	「雨じゃね?」	「アメじゃね」	「ア [↑] メじゃね」	
	対象とする文	音声 A (平板－平板)	音声 B (頭高－平板)	音声 C (頭高－頭高)
③	「雨降んじゃね?」	「アメフンじゃね」	「ア [↑] メフンじゃね」	「ア [↑] メフ [↑] ンじゃね」

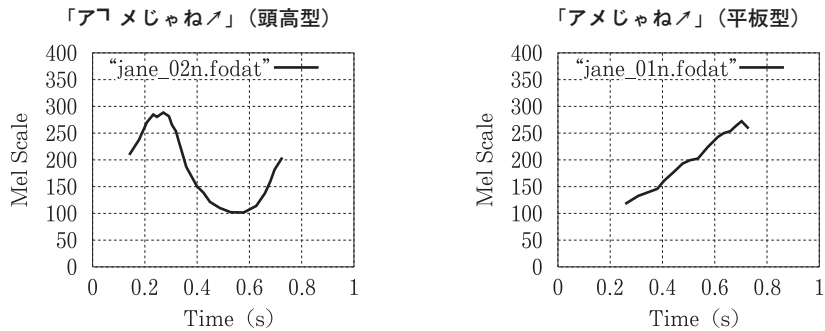


図4 提示した音声

3.2 東京式アクセントの聞き分け

図5に東京式アクセントの聞き分けの調査結果を示す。図中の「東京式アクセント」は、「飴」「雨」「橋」「箸」の4単語をすべて東京式アクセントどおりに聞き取った割合を、「非東京式アクセント」は4単語のうち1つでも東京式アクセントと異なる回答があった割合を表す。また、グラフ中に示す数値はデータ数である。

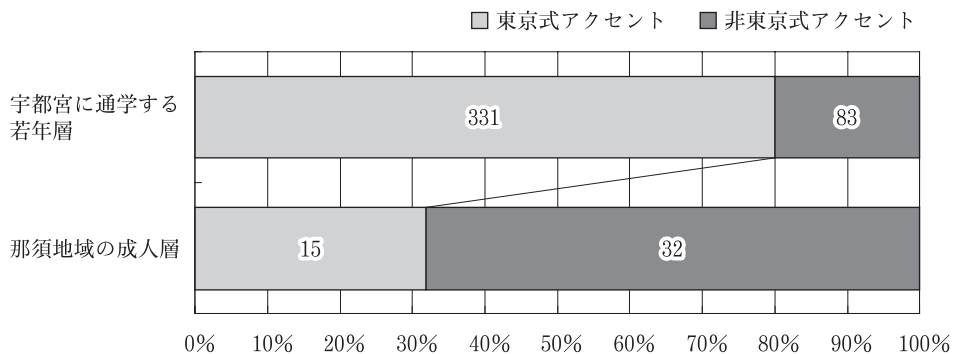


図5 調査1（アクセントの聞き分けに関する調査）の結果

宇都宮に通学する若年層は那須地域の成人層と比べて、非常に高い割合で東京式アクセントを獲得している。また、直接比較することはできないものの、小池（1982）の1981年の大学1年生と比べても、高い割合で東京式アクセントを獲得していると考えられる。次節以降では、宇都宮に通学する若年層を無アクセント地域において東京式アクセントを獲得した世代、那須塩原の成人層を無アクセントの特徴が残る世代と考え、「じゃない?」「じゃね?」先行語のアクセントについて考察する。

3.3 「じゃない?」「じゃね?」先行語の平板化

「雨じゃない?」「雨じゃね?」「雨降んじゃね?」における先行語平板化の割合を図6に示す。また、参考のために、単語アクセントの調査において、「アメ（平板）」、「アメ（頭高）」のいずれ

かで東京式アクセントとは異なる回答をした割合を左端に示す。

那須地域の成人層では、いずれも約 50%前後で項目間に有意な差はみられない⁽³⁾。すなわち、「じゃない？」や「じゃね？」に先行する語を平板化させる特徴は持たない。一方、宇都宮に通学する若年層では、単語単独の非東京式の割合は約 10%であるが、「雨じゃない？」の平板化率は約 50%、「雨じゃね？」「雨降んじゃね？」の平板化率は 80%以上であり、項目間に有意差が認められた⁽⁴⁾。また、「じゃない？」に先行する語と、「じゃね？」に先行する語の平板化の割合が大きく異なっている。このことから、「じゃない？」は、東京式アクセントの標準的な音調と、先行語が平板化したとびはね音調のどちらも選択可能な表現であるが、「じゃね？」は先行語の平板化と一体となって使われる傾向が強い表現であることが示唆される。

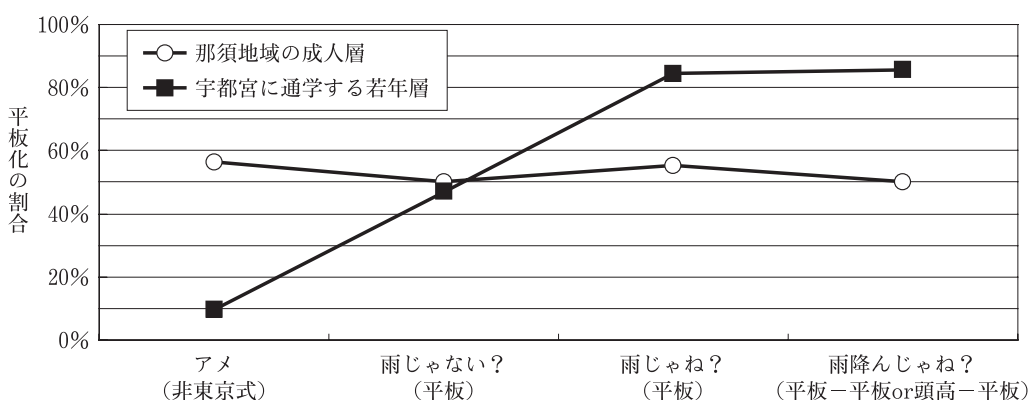


図 6 平板化の割合

3.4 東京式アクセントの使用と「雨降んじゃね？」の平板化の範囲の関係

単語アクセント（東京式／非東京式）と、「雨降んじゃね？」の平板化の範囲（平平／高平／高高）の関係についてクロス集計を行った結果を表 5 に示す。R の `chisq.test` 関数を使って、このクロス表に対してカイ 2 乗検定を行った。那須地域の成人層では、帰無仮説 H_0 「単語アクセントが東京式か否かで、「雨降んじゃね？」の平板化の範囲に違いがある」に対して、 p 値 = 0.341 > 有意水準 $\alpha = 0.05$ となり、帰無仮説 H_0 は棄却されない。一方、宇都宮に通学する若年層では、同じ帰無仮説 H_0 に対して、 p 値 = 0.046 < 有意水準 $\alpha = 0.05$ となり、帰無仮説 H_0 は棄却される。宇都宮に通学する若年層についての調整済み残差（表 6）が有意に高かったのは、「東京式－高平」の組み合わせ（>1.96 有意水準 5%）であった。

この残差分析の結果と、那須地域の成人層で「高平」のパタンの頻度が最も少ないこと、読み上げの調査で東京式アクセント使用者 6 名中 5 名が「高平」のパタンで発音したことから、東京式アクセントを使用する若年層には、「じゃね？」の先行 1 単語だけが平板化し、それ以前の単語のアクセントは消失しないという特徴があるといえる。

表5 「単語アクセントの東京式」と「雨降んじゃねの平板化の範囲」のクロス表

宇都宮に通学する若年層

那須地域の成人層

	「雨」「降ん」じゃね？のアクセント			
アクセント	平平	高平	高高	総計
非東京式	14	16	8	40
東京式	89	234	50	374
総計	103	250	58	414

	「雨」「降ん」じゃね？のアクセント			
アクセント	平平	高平	高高	総計
非東京式	11	5	11	27
東京式	9	1	11	21
総計	20	6	22	48

表6 宇都宮に通学する高校生の調整済み残差

	「雨」「降ん」じゃね？のアクセント		
アクセント	平平	高平	高高
非東京式	1.29	-2.48	1.76
標準	-1.29	2.48	-1.76

4. おわりに

本稿では、栃木県居住の若年層を中心として、収録調査により東京近郊若年層と、アンケート調査により栃木県居住の成人層との比較をすることで、無アクセント地域における東京式アクセントの獲得や東京式アクセント地域における平板化を分析するとともに、東京近郊で新しい現象として「じゃない？」や「じゃね？」の先行語観察される平板化と栃木の無アクセント+尻上がりの音調の関連を分析した。

アンケート調査の結果から、現代の栃木県若年層は非常に高い割合で東京式アクセントを獲得していることが明らかとなった。ただし収録調査の結果を見ると、東京式アクセントを使用する割合は50%程度であった。東京式アクセントを獲得した若年層の中で、日常会話で主として東京式アクセントを使用する者と、無アクセントを使用する者では、異なる傾向が現れる可能性があるので、今後、知覚と使用の両方を分析可能なアンケート項目の追加を検討したい。

また、東京式アクセント使用者において、「じゃない？」の先行語は頭高型と平板型が半々の割合であった。今回の調査結果の範囲では、「じゃない？」は先行語のアクセントを消失させるかどうかを任意に選択可能な表現であるといえる。そして、「～じゃない？」と「～じゃね？」は文末の/aɪ/が/e/に置き換わっただけのものではなく、「じゃね？」は先行語が平板化する特徴をもつ表現であるといえることができる。

「じゃね？」に頭高名詞+頭高動詞が先行した「雨降んじゃね？」では、「雨」を頭高に「降ん」を平板に発音する者が有意に多く、先行する単語を連続的に平板化させることが好まれているわけではないといえる。収録調査において、無アクセント使用者は全員、「雨」「降ん」の両方を平板に発音したとことと比較して考えると、東京近郊に見られる「じゃね？」の平板化の特徴は、無アクセ

ントの平板化+尻上がりの音調をそのまま適用したものではないと考えることができる。

新方言「じゃね」とびはね音調、および、無アクセントのピッチパターンについては、音響分析によって、その差異（または類似性）を探ることも可能であると考えられるので、今後の課題としたい。また、今回実施したアンケート調査のうち、市町村単位の居住地、両親の出身地については、本稿の範囲では分析を行わなかった。栃木県の若年層だけでなく、東京近郊の若年層などに対しても同様の調査を行った上で、居住地や両親の出身地等の属性情報も考慮に入れた分析をすすめたい。

謝 辞

調査にご協力くださった宇都宮短期大学附属高等学校の皆様、那須塩原市民開放講座受講者の皆様、宇都宮共和大学の皆様、明海大学の皆様に感謝いたします。

〈注〉

- (1) 東京近郊若年層のインフォーマントは、出身都県がそれぞれ異なるため、本来であれば分けて分析する必要があるが、本稿では、栃木県若年層との比較対象としての位置づけとし、ひとまとめにする。
- (2) 図中の「2 雨平」などの標記は、1文字目の数字が表2の丸付き数字、2文字目が「雨」または「飴」、3文字目が平板（平）か頭高（高）かを表している。すなわち、「2 雨平」は「じゃない？」(②)に先行する「雨」が平板で発音されたデータを表し、「1 飴高」は単語発話(①)の「飴」が頭高で発音されたデータを表している。「4 高高」、「4 高平」、「4 平平」はそれぞれ「雨降んじゃね？」の「雨」、「降ん」が「頭高→頭高」、「頭高→平板」、「平板→平板」で発音されたデータを表している。また、アルファベットはインフォーマントを表す。
- (3) Rのprop.test関数を用いて、比率の差の検定を行ったところ p 値=0.7398で比率に差があるとはいえない。
- (4) (3)と同様の検定において、 p 値 $<2.2 \times 10^{-16}$ となり、比率に差があるといえる。

参考文献

- 井上史雄（2008a）「ことばの散歩道 123 新方言じゃね」、『日本語学』, Vol. 27, No. 9, 明治書院。
- 井上史雄（2008b）「地域語の経済と社会 — 方言みやげ・グッズとその周辺 — 第27回 古株じゃん 新米じゃね」, Sanseido Word-Wise Web (<http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/wp/2008/12/13/地域語の経済と社会-第27回/>)。
- NHK 放送文化研究所編（2002）『NHK 日本語発音アクセント辞典 CD-ROM 版』, 日本放送出版協会。
- 小池清治（1982）「現代栃木方言の二、三の問題 — 自発動詞と東京アクセントの浸透について —」『宇都宮大学教育学部紀要』 Vol. 32, No. 1, pp. 1-22, 宇都宮大学教育学部。
- 田中ゆかり（2009）「「とびはね音調」とは何か」『論集V』 pp. 97-110, アクセント史資料研究会。
- 早野慎吾（2006）「無アクセントの比較研究：栃木・茨城アクセントと宮崎アクセントの比較」『地域文化研究』, Vol. 1, pp. 23-32, 宮崎地域文化研究会。
- 森下喜一（2004）「方言の特色」『栃木県の言葉』 平山輝男編, pp. 15-29, 明治書院。